

豊川市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

◆がんの予防と検診

早川喬俊氏(とよかわ未来)は日本人の死因の第一位ががんであり、男性では2人に1人、女性では3人に1人ががんから死亡している現状から問題提起した。

がんの予防には早期発見、早期治療が必須であるが、豊川市の受診率は最も高い肺がんで26・6%と低迷。

早川氏は名古屋市などでやっているワシントン検診について山脇市長が所信表明でも取り上げていることから市長の強いリーダーシップを求め、学校現場での

予防教育の重要性やがん対策推進条例の制定を要請した。

◆旅籠大橋屋

堀内重佳氏(同)は小坂井宿から長沢宿にかけては歴史的にも多くの文化遺産が

旅籠大橋屋の保存活用に熱い思い

あり、これらを貴重な地域資源として、ネットワーク化と街並み景観保全の重要性を強調した。また、文化財調査で大橋屋が江戸時代の旅籠(はたご)の貴重な建物であることが確認されたことから、市に移行した大橋屋の改修後の活用について、教育

長が「地元商工会や町内会と連携し、地域に愛される施設として、特に大橋屋の先主の思いを大切にし、保存活用を生かしていく」とした。

郷土愛に溢れた質問だった。

◆介護施設整備

市民病院に入院していた市民から「病

状が安定したら介護施設への転院を進められたが、多くの施設があり、よくわからなかった。また待機者も多く、豊川の介護施設は少ないのではないか」と指摘されたことから、星川博文氏(同)は市内や東三河での各施設の定員や整備状況

などを聞いた。星川氏は、わかりやすい「住まいの手引き」に期待し、東三河広域連合による介護保険事業の統合後も、介護を必要とする方が円滑に入所できるように取り組みを強調した。

◆赤塚山公園整備
年間40万人が訪

れ、情報誌「東海ウォーカー」でお出掛けしたい施設ベスト5に入った赤塚山公園のさらなる活用について取り上げたのは柴田輝明氏(同)。

◆創生総合戦略
石原政明氏(同)は定住・交流人口を増やす取り組みについて総合戦略での、「仕事づくり」「結婚・出産・子育て環境づくり」「安全で快適に暮らせるまちづくり」を定住施策、「ひとの流れづくり」を交流施策と位置づ

け、市内で新たにホテルが操業することなどから訪日外国人観光客の対応についても要請した。

さらに石原氏は「鉄道を活かしたまちづくり」にも言及し、豊川海軍工廠への輸送用に敷設された日本車両の引き込み線をまちづくりに

◆学校生活

神谷謙太郎氏(同)は学校生活は楽しいものでなければならぬと主張し、今年度の小中学校でのいじめ問題について質問した。

市民部長は「フルタイム再任用は短時間再任用とは異なる



り、職員定数に含まれる。現行の職員定数の中でそれを行えば、若年層の新規採用を抑制しなければならぬが、来年度からは新規採用のバランスにも留意して、退職者の意向を尊重してフルタイム再任用を行う」とした。

教育長は4月から10月までに小学校17校で46件、中学校で8校31件のいじめが報告され、いじめの解消率は小学校で78%、中学校で87%が解消または一定の解消となったと報告した。またスクールカウンセラーは中学校全10校、小学校は拠点校7校に配置されているほか、ハートフル相談員は3名が小学校を巡回し、さらに臨床心理士や学級運営支援員などで重厚に支援しているとした。